

# 時間軸政策と経済成長

## —日本のケース—

岡山商科大学 小塚 匡文

この論文では、わが国における長短金利のタームスプレッドの経済成長に与える影響を分析することによって、2001年より実施された時間軸政策を伴った量的緩和政策が、将来期までの経済成長にどのような影響を与えたかについて検証している。本稿では長短金利差で経済成長率を説明する、きわめてシンプルな回帰式について、推定および構造変化の検定を行った。その結果、以下の2点の結論を得た。第1に、より将来の期までの経済成長率を被説明変数にすると、長短金利差スプレッドの経済成長に与える影響はより低下する傾向にあったことが示された。第2に、21期先および24期先までの経済成長に与える影響については、2001年9月頃における負の方向へのシフトが検出され、1年9か月以上先までの経済成長に対しては、時間軸政策を伴った量的緩和政策の影響が若干はあったとみられるものの、それは有意なものではなかったことが示された。